

118.抗がん剤の暴露って！？



抗がん剤は、がんを治療するために使用される薬ですが、体の外に排出される過程で治療を受けてない人にも影響を与える可能性があります。排泄物（尿や便）、汗、嘔吐物、涙などに微量ながら抗がん剤やその代謝産物が含まれており、これに触れることを抗がん剤の「暴露」といいます。

抗がん剤はがん細胞だけでなく、正常な細胞にも影響を与える可能性があります。そのため患者さんはもちろん、ご家族や介護者が無防備に触れると、皮膚や粘膜への刺激、健康への影響が出る可能性があります。特に妊婦さんや免疫力の低い方、赤ちゃんなどは注意が必要です。

そこで、患者さんやご家族が日常生活で気をつけるべきポイントをご説明します。

1. トイレ使用時の注意



排泄物に含まれる抗がん剤成分が飛散するのを防ぐため、必ず蓋を閉めてから流してください。男性の場合は座って用を足していただくと飛散のリスクを抑えられます。水の流れが不十分な場合には2回流すことを推奨します。

仮に便器や床、壁に飛散した可能性がある場合は、使い捨てペーパータオルですぐに拭きとり清掃しましょう。トイレットペーパーで拭き取ってトイレに流しても良いです。家族用とトイレが分けられる場合には分けて使用すると良いかと思われます。



2. オムツやストーマ（人工肛門）による排泄物処理の際の注意

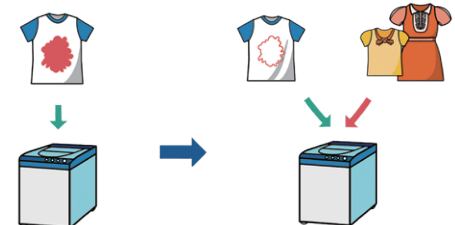


排泄物を安全に処理するため、必ず使い捨ての手袋を着用し、手袋を外した後は石鹸で丁寧に手を洗いましょう。汚染された清掃用具や手袋は、ビニール袋に二重に入れしっかり密閉してください。

3. リネンや衣類の洗濯



明らかな汚れがない衣類やリネンは他の洗濯物と一緒にして問題ありませんが、排泄物や吐物、大量の汗で汚染された場合には他の衣類とは分けて洗濯し、2度洗いすると良いでしょう。



4. 嘔吐物の処理

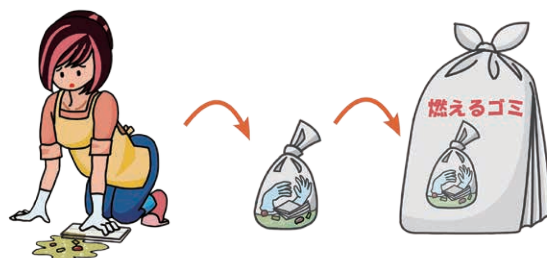


抗がん剤治療中は嘔吐物にも薬剤成分が含まれる場合があります。手袋や防水エプロンを着用し、吸収性のあるペーパーでふき取り汚染物を密閉袋に入れます。処理後は十分に手を洗ってください。

5. 家庭内でのゴミの処理



抗がん剤が付着している可能性のあるゴミは、一般ゴミと一緒に捨てる場合でも注意が必要です。吐物をふき取った紙や汚れた手袋などはビニール袋に二重に入れ、しっかり縛って密閉してください。ゴミ収集日まで他のごみに触れないように気を付けましょう。



6. 小さな子供や妊婦がいる家庭での工夫



抗がん剤治療を受けた患者さんと小さなお子さん、妊婦さんが同じ空間で過ごす場合には、さらに注意が必要です。排泄物の処理や清掃は健康な成人が担当し、妊婦さんや小さなお子さんが触ることのないよう注意しましょう。

以上、簡単ではありますが気をつけるポイントをお話ししました。では、どれくらいの期間気をつければよいのでしょうか？もちろん治療を開始してからずっとという訳ではありません。

お薬の種類や投与方法によって排泄物に薬の成分が残る期間は異なりますが、一般的な目安として以下のような期間が挙げられます。

点滴や注射の抗がん剤

多くの場合、投与後48時間程度で体外に排出されますが、一部の薬剤では代謝に時間がかかるため72時間以上注意が必要な場合もあります。

経口抗がん剤（飲み薬）

服用期間中は常に注意が必要です。服用終了後も、48～72時間程度は排泄物の扱いに注意してください。薬剤によっては7日間程度注意が必要な薬剤もあります。

また、裸錠（表面に加工のない錠剤）や粉薬など薬の剤型によっては暴露の危険があるため、服用する際にはカップに入れるなどして直接手で触れないようにしてください。触れた場合にはすぐに手を洗いましょう。

抗がん剤治療は患者さんにとって重要な治療ですが、その一方で抗がん剤を取り扱う医療従事者や家族、介護者が健康被害を受けるリスクがあります。尿や便、吐物などの排泄物を適切に処理し、患者さんの体液に触れないように工夫して安全に過ごせる環境を整えましょう。

今回は「暴露」を中心にお話ししましたが、治療中の患者さんにはさらに気をつけていただきたいことがあります。副作用を軽減するためにも手洗い、うがいなどの感染症の予防や栄養バランスの取れた食事（味覚の変化が起こることもあります）、体力維持のために適度な運動と休養も必要です。また、皮膚や口の粘膜が敏感になることもあるため保湿ケアや口内炎の予防もしっかり行いましょう。異常を感じたら早めに相談するようにしてください。

